6月28日 火曜日
昭和30年西暦1955年
発行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5

内外タイムス
THE NAIGAI TIMES
第3140号

4版

本予算、二日成立せん

"農相戒告"は見合わせ

両党も"戒告"撤回を決定

参院本会議

本会議は午前十一時半開会、更生保護事業審議会委員に宮城タマヨ（緑）高橋貞一（民）の両氏を任命することを議決、国家公安委員に永野重雄氏を任命することに同意、ついで商法の一部を改正する法律案（内閣提出、衆院送付）を可決成立、同四十分散会

河野・三木会談

"首相談話"で調整協議

……調整を行った

民主党としては二十七日中にも"鳩山談話"の案文を作成する方針であるが、同日正午から開かれる予定の民自四者会談は民主党内の意見調整がまとまらぬため午後二時に延びた

平和宣言

国連総会 閉会式で朗読

閉会の辞をのべるクレフェンス議長＝壇上（AP電送＝共同）

会期大幅延長

首相言明 重要法案の成立期す

……らない

中村氏 憲法を改正しなければ軍隊を持てないといっていた首相の憲法解釈が最近自衛のためなら持てると変ったのはなぜか

首相 憲法制定当時とくらべて米国と日本国民の考え方が自衛のためなら持ってもよいと変ってきた 私も独立国になった以上当然だと思う

日伊通商条約 本交渉を開始

日本とイタリアとの通商航海条約の締結交渉は二十七日夕刻（日本時間）からローマで正式に交渉を開始する、昨年末から進めていた予備交渉で両国の条約草案ができ上ったので正式交渉に入るものである

セニ氏、後継内閣組織受諾

イタリア政変

【ローマ二十六日発UP＝共同】グロンキ・イタリア大統領から組閣を委嘱されたセニ元農相は二十六日グロンキ大統領と会見し組閣を受諾した、同氏はまず中道連立内閣をつくることに努力するものとみられるが、その際キリスト教民主党の実力者ヴァノーニ予算相とペラ元首相の二人を内閣に引入れて事実上の三頭政治を行うことを考えているといわれる

【ローマ二十六日発AP＝共同】グロンキ大統領から後継内閣の組……

水入らず

永野護氏一家

遅ましき"雑草"

財界の根にからみつく

○…重雄氏は子供のころはガキ大ショウでチャンバラを近所の子供をやっつけるので重雄坊主が外へ出るとよその親は自分の子供を呼びに来たという、とにかくキカン気が強かったらしい

○…永野家は重雄氏の下も秀才ぞろいで有名である、三男知周（と……刈島という小島にある弘願寺のあととりだったが嫌って判事から弁護士になり最後は広島市に家をかまえた、三男知周氏が仏教大学へ入ったのは三百年の伝統をもつこの寺をつぐためだった

○…四男の俊雄氏は護、重雄両兄の後を追って東大法学部を卒業、内務畑で全国を歩き回り戦後広島に帰って現在水野組社長、陽気なオッサンで時々上京しては一族の間に笑いをバラまいてゆく、五男輝雄氏は元商工大臣伍堂卓雄氏の養子に行き、やはり東法卒で現職は日本鋼管取締役、鶴見製鉄所長「重雄とは違ってやさしい子で誰にもかわいがられた」そうである

○…六男鎭雄氏は東北大、竜谷大学を出て三男の身代りに弘願寺をつぎ、西本願寺総務局長として全国に采配を振っている、末弟治氏は変り種で東大工学部へ入った、一門の秀才で小学校へ入る前から子供の本を一度読んでもらうと全部憶えてしまったという、海軍の技術将校から戦後石川島重工に入って現に技術部長、一昨年ガスタービンの研究で工学博士になった

○…この秀才一家の父親法城氏は兄一人妹一人さびしい家庭であった、だから氏は子供は沢山つくろうと決心してつくったが、わずかに長男が東大へ入ったのをみただけで世を去った、今日の盛況？をみせられなかったのが、永野兄弟の現在一番遺憾とするところだという、もっとも仁子さんは「揃っているというだけで一人一人みたら世間普通並の人間ばかり」と謙遜するし、家長格の護氏によれば「雑草だから今までうまくやって来ただけだ」そうだ、しかし雑草とすれば大正から現在までの日本経済の骨格にまでからみついた雑草であろう、番町会―国家公安委員―経団連―西本願寺、そして最後にジェット・エンジンとお膳立はそろっている（明）

写真 一昨年末弟治氏が学位をとったときの記念写真、前列左から永野護夫妻、治夫妻、重雄夫妻、中列伍堂輝雄夫妻、永野俊雄氏、ひとりおいて粟野仁子さん、後列中央が仁子さんの夫君粟野俊一氏

粋人酔筆

土堤スズメ

夏になると、着物は、黒いものを避けて白いのを用いるのが常識である。黒いものは輻射熱を吸収するので、白よりは遥かに熱くなるからだ。こんなことはいわずと知れた話だが、どっこい白いものばかりだとはいえず、なかなかの黒流行である。そこである呉服屋へとびこんで、

「御婦人たちの着物が、黄色のものが流行する年は景気がよくて、このごろのように市松模様がハヤる年は、不景気の象徴だという説がありますが、黒いのも大分、流行っているようですね。夏だというのに。あれを着るのは…」

理由を訊ねてみると、

「黒は便利です。人目につきにくいですから」

「すると、中年の女の嗜好みからだというわけですね」

「いいえ。このごろのアプレ娘の間にも流行っています。ユカタがわりに…」

「黒のユカタなんて熱っ苦しいだろうな」

「いや、なかなか涼しいもんですよ。まァひと晩、懐中電燈を持参して、J大学の校庭へ見学に行って御覧なさい。五月闇の田圃の蛙のように、アッチでもコッチでも…黒は目だちませんからね。それだけ自由に振舞えますからね」

意味深長な答えを出してくれた。その日の夕方、放送局に勤めているN君がジンゾウ結石でK病院に入院していることを聞いたので、見舞いに行った。その病院の窓下には国電が走り、線路の向う側の公園の傾斜面には、夏草がボウボウと生えている。予算の関係か、そこまでは手が届かぬらしい。

「手術の結果はどうかね」

「軽石みたいのを腹から取ったけど、夕方から夜にかけて、下ッ腹がうずき出して…」

「ボウコー結石の気味もあるとみえる」

「エ、ヘ、ヘ。月夜になると、もっと下の方がウズウズして、もう、この病院からは出られそうもありません。いや一生、出たくありませんよ」

「白衣の天使のなかで、気にいったのが見つかったのかい」

「もっとスゴいものを発見しましてね。向う側の土堤で…」

といって、N君はベッドから起きあがり、線路の向う側の青みを指さした。

「雀ゴッコかい？」

「チャッといって抱擁したかと思うと、ゴロゴロと土堤を転げ落ちて、あとは第一巻の終り」

「それを見ていたキミが第二巻目を引きつぐわけか」

「もう間もなく開演の時間がやってきますから、ゆっくりとタカミの見物をしていって下さいよ。後学のために」

てな話をしているうちに、夕闇が立ちこめ序の口が信号燈の光によって浮きだされた。芝居なら序幕、映画ならばニュースに当るわけで。まず黒衣の二十娘と紺地の上衣を着た三十男らしきものが、向う側の土堤の上にボーッと現われたかと思うと、例のごとく型のごとく、手は伸び足は伸び…。見ているコッチ側でも腰がのび首がのび、N君なんぞは手術直後の病身も忘れてベッドの上に立ちあがり…。あれよ、あれよ、と見る間に土堤の上の二つの黒い塊りは、ゴロリ、ゴロリと転げて、傾斜面の中途にある一坪ほどの平地へ停止した。信号燈が青く点くときはスサマジく見え、赤信号になるとエロっぽく見える。N君が退院したくないというのも道理の光景である。長い。屋根から転げ落ちるのを利用して天国行きをするスズメの行為であるべきにどうしたことか、この人間スズメは平地に停止したままである。さては極楽往生を志願したに相違ないと心のうちで暗中模索を試みていると、電車のフット・ライトは二人の姿を大きく写しだした。何かの都合で赤信号が出たから写しっぱなしである。

見える、見える、よく見える。抜きさしならぬスズメが田圃の蛙の真似して御座るのがありありと見える。

「チェッ。畜生ッ」

そう聴こえたかと思ったらN君はベッドから転落していた。

彼はいまも病院に入ったままである。腰部脱臼とかいう病名だそうだ。

福田蘭童

東京株式仲値

新株落△配当落（27日前場終値）

特定銘柄	
東海上	249
郵船	58
新三菱	84
日清紡	262
味の素	273
三越	267
平和不	177
三井金	108
三菱金	82
日鉱	81
住友金	88
三菱鉱	38
古河鉱	60
同和鉱	110
住友炭	53
三井山	51
北海炭	48
東邦亜	64
帝石	68
日石	96
昭和石	98
東燃	112
三菱石	115
大協石	113
日東化	72
日産化	75
三菱化	101
三井化	111
協和醗	112
東合成	114
三共薬	144
信越化	80

銘柄	値
東高圧	120
昭電工	79
日本曹	75
旭電化	—
三菱造	79
三井造	113
三菱重	59
石川重	90
精工	130
東洋ベ	109
日立造	46
浦賀	47
日平	22
古河電	68
日立製	68
東芝	65
三菱電	81
小松	51
日本光	136
キヤノ	142
東京光	—
東洋紡	132
鐘紡	110
富士紡	103
大日紡	76
日東紡	59
片倉	31
東邦レ	96
帝麻	55
中繊	52
帝人	125
東洋レ	175
三菱レ	119
倉レ	87

銘柄	値
旭化成	335
山陽パ	98
日本パ	94
国策パ	101
東北パ	115
大東紡	95
商船	44
三井船	49
飯野海	45
西武	349
藤田興	217
東京ガ	66
東電	444
日銀	—
東銀	72
三井銀	70
富士銀	89
日証金	84
安田火	106
大正海	—
住友海	77
千代田	74
鋼管	68
日製鋼	63
八幡鉄	50
富士鉄	47
神戸鋼	52
日特鋼	117
日軽金	173
日金工	59
日セメ	129
磐城セ	236
小野田	81
横浜ゴ	□160
旭硝子	144
富士写	123
小西六	110

銘柄	値
カボン	50
三井物	137
第一物	96
白木屋	285
高島屋	82
日活	□69
松竹	197
東宝	1290
大映	177
日本粉	126
日清粉	155
日本ビ	139
朝日ビ	167
キリン	189
宝酒造	91
合糖	216
明糖	113
甜菜糖	125
野田醤	187
森永	280
明菓	173
日水産	81
昭和産	90
東洋醸	—
合同酒	109
三栄	89
大阪糖	140
王子紙	213
十条紙	224
本州紙	87
三菱紙	86
北越紙	53
三井不	789
三菱地	472
三井倉	79
渋沢倉	75
東洋埠	175

市況

閑散ながら堅調

手掛り難と大証券の消極的態度から商内は見送られがちだが、前週来の地合を映し、仕手、準仕手株の小催りを中心におおむね堅調な場面、なお五社の新株落、五十社の配当落もおおむね順当であった、特定株は人気離散して目立った手口はないが、マバラの買物が続いて東海上が一時二百五十円台を回復するなどあってそれぞれ一―三円高と小催り、雑株は動意薄の場面だが、三井不、住商など値嵩株が地場買に上進しているほか大証券買で海運株、邦船、鉄鋼など一連の金ヘン株が強含み商状を示したのが目立つ程度

▽高い株＝三井不十二円、住商九円、三菱製鋼、白木屋、東光電五円、日野ヂ四円

内外抄

……が民主党の相場は下げるだけ。

◇

子を救おうとの母性本能から即死した母親、彼らを救おうとの人間本能から重傷した駅員。嗚呼。

◇

ミス・ユニバースの日本代表が東京代表の高橋嬢と決る。この八頭身がイロイロの新ネタになる。

◇

学生のダンス・パーティで負傷者まで出す乱闘騒ぎ。親不孝の罪を重ねるでないよ。

ジグザグコース

不粋なルール

オーストラリアのホード選手といえば第一級の庭球選手、ウィンブルドンで奮戦中だが大会出場を前に同国女子選手と結婚した。テニスという競技は大体が上流階級のものだが、その上流階級のスター同士の結婚だから何とも華やかなものだろうと想像され、筆者のような野暮天でも祝福を送りたくなるような話である。

ところが外電によると、花婿の所属するオーストラリア・デ杯チームには国際試合またはデ杯戦参加中、選手は妻と同居してはいけないというルールがあり、せっかく式はあげたもののデ杯戦のすむ九月末までは二人はいっしょに住めないという。何となく近江絹糸を思い出させるような話である。

オーストラリアは英連邦の自治領で植民地時代からインドやビルマとはちがって白人＝イギリス人＝だけの天地で個人の人権は何よりも尊重されているはずである。そのオーストラリアで、このような人権の制限があるのは何とも理解に苦しむところだ。斎戒沐浴とか精進潔斎とかは封建時代の美徳？であって迷信的な要素も含んでいる。きびしい相撲の世界でさえ、今では場所中、妻と同居するのは当り前であり、夫婦生活が自然に行われる限り、マイナスどころかプラスになっている事実があるのだ。別居するとしてもそれは本人達の自らやむを得ず……

【写真はホード選手】

青春無宿（49）

大林清 作
下高原健二 画

書の狼（三）

「ひとの前を通るときゃ、挨拶ぐらいするもんだ」

疵男が、凄味をきかせた声できめつけた。

「挨拶はした筈だ」

次郎は別にうそぶくでもなく、普通の調子で云った。

「いきなり足を踏みこむのが挨拶か」

疵男が声を高くしたのを合図のように、五人はいっせいに立ちあがった。

だが、次郎はまだ椅子にかけたままで、顎を撫でながら見下ろしている。

「てめえ、俺たちの邪魔をする気だな」

「ははゝ」

「何がおかしい！ ふざけた野郎だ」

次郎もその男の名だけは知っている赤目の西がわめいた。

「ふざけているのは君たちじゃないか、いったい君らは何の用があって、ここへ来ているのだ」

「てめえの知ったことじゃねえ」

疵男が仲間へ眼くばせしたのは次郎をつまみ出せという意味らしかったが、誰も尻込みして、上り口へ足をかける者がない。

「君たちの中の誰もここに住んじゃいない、住んでいる者に知り合いもない。それなのに入口に頑張って、通行の邪魔をするのは不法侵入だ、つまらん真似はやめてさっさと帰りたまえ」

「やいやい、能書をならべるのもいい加減にしろ」

疵男がノッソリ次郎の前へあがって来た。

「昨夜手をひけと云ったのは、つまらねえところへ出しゃばって怪我でもしちゃァ可哀想だと思ったからよ。俺たちの邪魔をするんなら叩き出してやる」

そう云ったのと、拳が次郎の肩口を突いたのとは同時だった。

次郎は半壊れの椅子をきしませて、後ろの壁へ背中をぶっつけた。

腹が立たないと、腕力をふるう気にならない次郎は、まだこの程度では立ちあがれなかった。

「立て！」

相手は図に乗って、次郎の腕をつかむなり引立てた。

その瞬間、やにわに躍りあがって来た赤目の西が、次郎の頬へ大きく腕をふるった。

次郎はよけなかった。もう少し腹を立てるためだ。非力な赤目の西の一撃ぐらいでは、よろめきもしなかった。

「野郎ッ、外へ出ろ！」

疵男がつかんでいた腕をはげしく前へ引いた。

「乱暴するか！」

次郎の全身に気合がはしった。と思うと、ほとんど反射的に腕とからだが動いて、疵男の大きな図体が、土間へもんどり打った。

「相手になってやるから来い！」

次郎は疵男を投げ飛ばした余勢で、外へ躍り出た。こんな真似をするのではなかったと、後悔めいたものを頭の片隅にうかべたが、もうどうすることも出来なかった。

それにしても狭い路地では進退に不便だ、どこか適当な場所がないものかと考えながら走る余裕が次郎にはまだ残っていた。

万宗の角を走り出ようとした時、

「おッ、宇田さん！」

出合いがしらにそうさけんで、プラカードを肩にしたサンドイッチマンの東藤が行手を遮った。

話題の女性その後

「方丈記」のセリフではないが、この世は起きてては消えるウタカタならぬ話題の山なみであるようだ、胸を打つ話、憤りをそそる惨劇…が人の心をゆさぶりながら、いつしか忘れ去られて行く、げに「人の噂も七十五日」だが、そのころ話題を投じた主人公は、その後どこで何を思いながら生きているだろうか、話題の女性のその後をあれこれ探ってみよう

人の噂も七十五日 ①

巡り来た七度目の夏
好きな山に祈りと読書の生活
"金時娘" 小見山妙子さん

夢多き乙女の願いをただ一すじ山に生きるの願いに変えて、箱根外輪山中の最高峰一二一三メートルの金時山頂の茶屋に一人ずまいの生活をはじめてからすでに七年、"金時娘"の愛称で呼ばれる小見山妙子さんもいまは二十三歳の多感な年令の女性に成長した…彼女にニュースのフラッシュが注がれたのは昭和二十六年、ニッポン・タイムス社長東ヶ崎潔氏夫人三寿さんと信仰で結ばれ、さらに三寿さんの紹介で秩父宮家と近づきになったというばかりではなく、山に独り住む少女の姿が、当時の人々の興味をそそったためであろう、彼女はいま何を思い、どのような生活をしているか、話題のその後をたずねるために六月下旬のある日、記者は霧深き金時山を登って行った　(A)

○…箱根温泉郷を登りつめた仙石原村のはずれ近くにある「金時山登山口」の道標をあとに、鬱蒼とした密林、ゴツゴツした岩肌、絶壁のようにそそり立つ尾根道、十メートル先は文字通り五里霧中の霧の中を、下から巻きかえす突風にあおられながら、汗と霧でビッショリの体を運ぶこと約一時間二十分十メートル平方ばかりの平地を頂いた金時山頂上にでる、ふと眼をやると

この平地から一段下ったところに吹きつける風を避けて「金時山荘」の看板を吊した小屋がチンマリ建っている「小見山さーん」と呼ぶと、ガラガラッと戸を開ける音とともに「ハーイご苦労様です」とはずんだ声に続いて、目指す"金時娘"小見山妙子さんの顔がのぞいた、水色のワンピースの上に紺のセーターを着こみ、胸に手製でもあろうか大きな椿の造花が赤く

眼にしむ、前髪をたらし赤くふくらんだホッペタ、唇に薄く紅をさしたあどけなさが消えない少女である、玄関を入るとコの字型になった左右にゴザが敷かれ、その右手の部屋が彼女の居間兼書斎兼寝室、左手壁にキリストの像と十字架、その右にある二段の棚には詩集など文学書がギッシリ並べられている、いま彼女は論理学を読んでいるというが、一番好きなのは高村光太郎の「冬の詩」だという、朝四時半、太陽とともに一緒に起きる

きる生活をしている、下山は週三回、穴の男がフーフーいって登り下りする山路をちびたサンダル・スタイルで、水二斗(十二貫)を背負い、四十分足らずでヒョイヒョイ登ってくる彼女でもある、食事は一日二回、米は足柄村にいる母そのさん(四六)のとこから毎日のように強力が運んでくる、一人っきりの彼女のかくれた同伴者は"女王"と呼ばれる牝猫で、もう六年も妙子さんと居を共にしてい

世間の眼も温かに
日に30通のファンレター

[illegible]…登ったとき」はからずも早稲田大学の学生に遭い、死の寸前をさまされたときにはじまる、[illegible]に送り返された彼女は、その後から悶々の生活を送るように[illegible]った、そうしたある日、フッと頭にひらめいたのは「そうだ[illegible]ばさんが権利をもっている金[illegible]山で死んだお父さんと一緒に[illegible]そう」ということだった、彼[illegible]の父は富士山頂の観測所に十[illegible]年勤続の山に生きる父であったが、十年前惜しまれながら他[illegible]した、山に籠った彼女にたい

する世間の眼は冷たかった、ためまに山を下りる彼女に向って「気違いと神様は高いとこが好きだってサ」と聞えよがしの悪態をつき、常人として相手にしてくれなかった、しかし彼女の信念はそれにもまして強く、ただ父と共に、またキリスト教の信仰生活と好きな山に生きる喜びで一杯だった、七年だったいまでは冷ややかな世間の眼も温かいものに変り、一日平均三十通のファンレターが舞い込んでいる、その多くは山に生きる彼女の生活をうらやむ文面のものが多いが、なかにはふざけたものがあり「貴女と共になら三千世界まで生きられます」とか「金時娘と一緒になりたい」とかいうもので占められている

水一杯五円也…そこは茶店である(左)

刺されても屈せず
片手で痴漢のばす
プロレスまがいの武勇傳

○…こうした"聖処女"のような気持に生きる彼女にも一再ならず魔の手が伸びることがある、一昨年十二月半ばごろ、一見労働者風、三十歳くらいの男が金時山荘を訪れ、人間の生と死の問題を語りあっているうち、日はとっぷり暮れてしまい、妙子さんは「お泊りになったら…」とすすめた、フトンを敷き終った途端、男は物もいわず、やにわに妙子さんに挑んできた、一度押さえこまれたかに見せて、スキを見た彼女は両足で力一杯男を蹴飛ばして立ち上り逆に馬乗りになって押さえこんで諄諄と人の生きる道を説いたが、男もまたスキをみて一目散に逃げ去ったという、二度目に襲った危機は昨年のやはり同じ十二月だった三十五、六の男が山を登ってきた温く迎えた妙子さんに「平凡をみたら貴女の写真が載っていた、逃げられた女房に余りにも似ているので一目会いたくてきた」と彼はいった、例によって「泊めてくれ」の願いを快く聞き入れた彼女はフトンを敷き、お祈りをしたあと「お休みなさい」の挨拶を交し、ランプの灯を細くした途端、ガバッとはね起きた男は体ごと妙子さんにぶつかってきた、と一瞬、ブスッという鈍い音とともに右腹下にう

ずくような痛みを感じて彼女はその場にうずくまってしまった、両刃のドスで刺されたのだった、滴たる血を見た男は「オレは下界で女三人を刺してきた、二人は死んだが、一人は重傷で病院に担ぎこまれた、しかし何人殺しても下界の女では有名にならない、どうせ豚箱に突っこまれる身であと長いことはない、お前を殺せばオレは有名になれるんだ、お前の肉体を征服し、お前の命を征服してからオレは死ぬんだ」とうめくような声でいい終ると、グッと男の体臭とともに襲いかかってきた、妙子さんはひるまず渾身の力をこめ、まだ刺されない左手で唐手チョップを食わせ、ネジ倒し、当身をくれて気絶させてしまった、恐怖の一夜が明け翌朝、まだ寝転ったままの男には見向きもせず一目散に山を下りて医者の家に飛びこんだ傷は幸い急所をはずれていたが、七針も縫うほどの深傷だった、治療を終えた彼女はふたたび山荘に帰ったが、そこにはもう男の姿はみえなかったという

風流世界譚 ….(日本)….

露店が許可されなくなってから は、商人たちが団結して、デパート風のマーケットを設けて営業するようになっています。その一つKマーケットの平助君は中々の道楽者で、青い灯、赤い灯は毎夜のお馴染みですが、道楽の果ては何とやら、すでに二十代三十代の女性の味は知りつくし、俗にいう「四十女はヒレ肉の味」というのを賞味しようと念じておりました。すると、梅雨時の洋傘を仕入れに出た帰路、路地のかげから「お兄さん、ちょっと」と声をかけたのは、いわずと知れた夜咲く花、それも平助君の念願通りの触れなば落ちんウバ桜の風情です。そこで、例によって例のごとき手続きで一ッ刻の夢を結んだ訳ですが、彼女、別れぎわに「とても良かったワ」とのご託宣で、彼氏を喜ばせてくれました。さてその二、三日あと、Kマーケットの洋傘部に現われたのが件の女性。あれこれ傘を選んでいるところへ飛び出していった平助君、「奥さん、もっと柄の太い、にぎり具合のいいテスト済みのがここにありますがね」

彼女にも嬉し心の春の訪れ
よき"援助者"得て幼稚園開校の夢

○…「将来は?」の問いは「できれば東京にある学院に通い、そこをでたら園を開きたいと思ってまいう、「その資金はどうるんです?」とタタミかくと「さア、なんていっいかしら"信頼すべき人ないし、しかしよき援助るんです」と頬を上気さえた、彼女の語る"何千かから選んだ"援助者"とはこうだ…、[illegible]夏も終りに近づいたころめて金時山に登ってきた[illegible]一人の[illegible]、彼は八ヶ嶽で救ってくれた学生と同じ早稲田大学の教育学部国文学科四年の学生である[illegible]それいらい彼は月に一度は金時山を訪れるようになったが、信頼できる人と信じこむよ[illegible]うになったのは今年の正月二日、山頂から吹き上げる風が折柄ふきつける雪を運んで襟元に冷く吹き込む日だった、真冬のことで山を訪れる人もなくただ一人

お祈りと読書に明け暮れる彼女の前にその学生が現われたとき地獄で仏にでも会った気持がしたという、土間を仕切った囲炉裡にドンドン薪を燃やし、信仰の話、哲学の話などを語り合ううち、いつしか青年と妙子さんの心は屋根の雪が融けるように触れ合って行った、フト気がつくと二人は手と手を固く握り合っていた、このことがあってから青年は月に二度は彼女を尉さめ、励ましにやってくるようになった、彼は詩人であり、クリスチャンでもある、はじめは固

く口を閉ざしていわなかった名前も「頭文字だけなら…」と"H・T"なる青年であることを教えてくれた、T君は渋谷の自宅から学校へ通っているが来年、学部を卒業して大学院に進むという「あと四年です」と指折り数えていう"金時娘"にも心の春が訪れた、彼女のいう"援助者"それは"恋人"といってもいい

間柄のようだ「結婚は?」と聞くと「まだそこまで考えておりません」と上気した頬をさらに赤らめて語る彼女であったが…

あすの運勢 ＝六月二十八日＝ 高島象山

▼一月生―何事も多少の苦労はあるも素志の貫徹に努力し目的叶也
▼二月生―気運やや安定して物事平易に進み平穏あり取引貸借注意
▲三月生―物事自由を失し他動的災害を蒙ることあり交際外交注意
▲四月生―慢心を戒め慎重なる態度を以て進めば進展し栄達する也
▲五月生―禍い転じて福となる義で辛抱強く熱心に努力すれば無事
▲六月生―何事も小田原評議で日が暮る義で理想でなく現実に進め
▲七月生―運気頗る旺盛なれば思い切って活動し利達栄昌あるなり
▲八月生―疑心暗鬼を生じ自ら事に迷い失望を招き易い慎重にせよ
▲九月生―何事も自由自在に進展向上の義あり開業祀業結婚は大吉
▲十月生―物事に他人の悪評を受け或は家庭の内外に不和を生ずる
▲十一月生―稼業を守るものは無事気迷うものは失態を生じ損失有
▲十二月生―万事に技倆を発揮して活動すれば目的有利に進展する

モダン歳々記
お富さんの作者

明治十四年六月二十八日、歌舞伎狂言作者三代目瀬川如皐が没した、と、もっともらしくいうより今の人には「お富さん」の作者が死んだといった方が判りが早いかも知れない。如皐作「与話情浮名横櫛」別名「切られ与三」八幕三十場は嘉永六年三月十四日、江戸中村座で初演された。初めは「加賀見山」の二番目狂言だったのが、好評で書き足され三十場の通し狂言になって、八世市川団十郎が切られ与三に扮して大当りをとった。

今日では三幕目の玄冶店が「しがねえ恋が情の仇…」の名台詞とともに残ってよく上演され、流行歌「お富さん」もここに胚胎したのであるが、当時もこの成功に追っ駈けて、すぐこれが艶笑本として長篇のものを生んだ。芝居での玄冶店でも、先代梅幸が別室に入ったときと、出てきた時とで、帯の結び方を替えて閨房の内容を暗示するような細い技巧を凝らした位のものだから、これの艶笑化は大いに歓ばれたようだ。幕末のニヒリズムと悪への讃美が横溢した「切られお富」(処女評浮名横櫛)というものもできて三世田之助得意の女侠物の一となった。(鮭)

風流のれん街 あまから・クラブ同人

☆ああM＋W時代☆

満員の映画館で立見をしている と何やら尻のあたりがムズムズするのでヒョイと見ればアプラ切ったオッサンの手がニュッとのびている

ハハア、こっちがピンクのYシャツを着てるんでオッサンの奴オンナノコと間違えた大、こいつァ面白いとばかりこっちも手を出してオッサンの手をギュッと握り返せば、いつまでたっても握りしめて離さないので、ハテナともう一ペンよく見直せば、オッサンならずズボンをはいたマダムだったってネ

うっかりソング

内は赤くて　ネチョリンコン
外はツヤツヤ　玉のハダ
タめつすがめつ　ねめつけて
イじくり回した　そのあげく
ム理矢理近くに　引き寄せる
スイカ買う時や　この手です

風流読本
結婚記念日のシオリ

紙婚式(一年目)＝結婚後一年目ぐらいはまだまだお互いに元気ざかりだ、紙が沢山必要だから紙婚式という

革婚式(三年目)＝三年たつとお互いに少少ズーズーしくなってくる、面の皮が厚くなる頃だから革婚式

花実婚式(四年目)＝花が実を持つ婚式とは、子供をドシドシ作る時代のことである

木婚式(五年目)＝旦那様の道楽が始まるのは五年目頃、奥さんがカンカンに怒ってスリコ木を振り回すから木婚式

錦婚式(十年目)＝十年たてばケンタイ期、奥さんは若いツバメを、旦那様は二号を、てな具合にお互いに錦を着ておめかしするから

陶婚式(二十年目)＝夫婦生活にコケラが生えるとケンカが絶えない、お皿を投げ合うようになるから陶婚式

銀婚式(二十五年目)＝陶婚式から五年もたてば陶器のお皿はとっくに品切れ、それに金も少々残ったし、銀のお皿で食事をした方が結局経済的と気づく時代

金婚式(五十年目)＝五十年たてば夫婦のうち一人は大抵この世の人ではない、貯金と生命保険を後生大事に抱いて寝る時代だ

金剛石婚式(七十五年目)＝いよいよ養老院時代、金剛石とはダイヤのこと、ダイヤみたいに目を光らせて、養老院の火事を心配しているから金剛石婚式という

小話

女房とタタミは新しい方がいいなんていったのは昔のこと、恐妻時代の近頃じゃ、女房の方が、亭主とビョウブは新しい方がいいなんてうそぶいています、「ビョウブといっしょってのはどういうわけだい」と聞いたら、女房答えて曰く「どっちも新しい方がよく立つからよ」

ラジオとテレビ 27日(月)

時	★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ 690KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニッポン★ 1310KC
6	00 ❶子供のシンブン❷岬の少年達 桑山正一ほか 25 物語「オテナの塔」	05 英語会話◇今日の市況 30 ポケットラジオの組立 40 科学クイズ 永野為武	10 東西こぼれ話 小金治 15 スイート・コンサート 25 バイバイ・ゲーム(関)	00 劇「少年宮本武蔵」 10 劇「すずらん太郎」 25 久保田敏夫とラツキー	00 劇「ポツポちゃん」 20 劇「少年探偵団」 35 歌謡百貨店 津村謙他
7	15 録音ニュース 30 三つの歌 司会 宮田アナ(徳島市市民会館にて収録)	00 名曲鑑賞 20世紀の音楽 解説・入野義郎 30 若い女性 録音構成「理想の女性」	10 録音ニュース 20「かげろうの日記」 30 四つの明星 高田浩吉 久保幸江 草笛光子ほか	00 録音ニュース 10 歌 パテイ・ページ 20 ものまねコンクール 市村俊幸 霧島昇ほか	00 ラジオ夕刊(耳の新聞) 20 花のステージ松尾康子 30 ❶三味線コント 鯉香 ❷落語「花筏」柳枝
8	00 お父さんはお人好し アチヤコ 浪花千栄子他 30 浪花節「灰神楽三太郎」相模太郎	05 きょうの国会から 20 座談会「ソ連・中共見たまま」桑原武夫 野口彌吉 長田新 茅誠司	00 劇「まだらの紐」ドイル作 山形勲 永井智雄 30 タレント・スカウト 松井翠声 黒木曜子ほか	00 六大学春の音楽リーグ戦「慶明戦」黒木曜子他 30 劇「雪之丞変化」市川中車 岩井半四郎ほか	00 ハロー・ハロー・クイズ 司会 テデイ・中村 30 大学勝抜歌合戦 司会 石田一松 山内謙一
9	05 ニュース解説 村田 15 街録「都会と気象台と漁村を結ぶ」和達台長他 40 春子の手帖 メイコ他	00 名作劇場「水の子」キングスレー作 川久保潔 里見京子 古畑輝子 大森義夫 中村美代子ほか	10 銭形平次捕物控 滝沢修 渡辺篤 月丘千秋他 35 ❶漫才 蝶々・雄二❷落語「家見舞」柳枝	00 何処へでも「夢声と医者」徳川夢声 30 歌謡浪曲「カチユーシヤ」春日井加寿子	00 親子演芸会 浪花節「野狐三次」鑑甲斎若丸 春日清鶴 30 歌の二人三脚 佐伯徹
10	15 新家庭読本 録音構成「共稼ぎ」丸岡秀子ほか 40 風流歌草紙 とよ寿他	00 ❶初級英語 小野嘉寿男❷上級国語 増淵恒吉 45 気象通報	05 きょうのニュースから 15 劇「新選組」木村功他 30 ピアノ三重奏曲ニ短調	00 大学受験春期基礎講座 英文和訳 岩田一男 30 解析(1) 田島一郎	00 劇「南無三宝」小沢栄他 15 落語「船員の恋」歌奴 35 劇「緋牡丹記」轟ほか
11	10 世界をつなぐ 11 随筆「閑古鳥」大町文衛	05 商店街運営のコツ 20 医療社会事業について	10 科学の眼「ビールの科学」◇政局の動き	00 青空会議「日ソ交渉にのぞむ」園田直ほか	00 スポーツ・カレンダー 15 続「梅雨前線を截る」

テレビ

★NHK★ ◆6・00 仲よしニュース◆6・30 芸に生きる 坂東蓑助 武智鉄二◆7・10 海外週間ニュース◆7・30 ジエスチヤー◆8・00 映画「東京香港密月旅行」より◆8・30 劇「やがて蒼空」南条秋子 滝田裕介ほか

★NTV★ ◆6・00 映画「ヘレン・ケラー物語」◆6・55 福本泰子のシヤンソン◆7・30 人形町末広亭から寄席中継 今輔 猫八 痴楽 正楽 小文治 ひろし・まり◆9・00 きょうの出来ごと◆9・10 テレニュース

★KR★ ◆6・00 人形と影絵「人魚のお姫様」◆6・20 映画「保育園の子供たち」◆7・00 映画「鉄路に生きる」◆7・30 演芸場 音曲・枝雀 落語・正蔵◆8・00 浜口庫之助と楽団◆8・30 タレント・スカウト

あすの番組

NHK第1	NHK第2	ラジオ東京	日本文化	ニッポン
7・45 朝の訪問 安芸皎一	8・00 結核と体温上島三郎	8・20 ラジオ・スケツチ	8・25 劇「青春のある所」	8・10 お早ようブーちゃん
8・05 名演奏家の時間	8・30 大作曲家の時間	9・45 BBS会をたずねて	9・15 ラジオ小説真珠夫人	8・45 お好み歌謡曲
8・30 小鳥を訪ね中西悟堂	9・00 きょうの学校放送	10・10 名作「戸田家の兄妹」	10・40 劇「君ひとすじに」	9・00 劇「サザエさん」
9・15 老人の夏の家庭着	10・15 楽しい音楽器楽合奏	11・35 音楽のスーツケース	11・35 連続劇「東京の人」	10・00 やりくりチヨ子さん
10・05 けさの話題松宮克也	10・30 この頃のできごと	12・15 末弘ゆきとリトル	12・15 浪曲「黒装束」東武蔵	11・00 連続劇「信子」
10・15 叶つた話 阿部艶子	11・45 赤字に悩む地方財政	1・30 主婦の作文(鶴見)	1・15 落語随想 金馬	11・35 朗読「大阪の宿」

浪人街道 (200)
木村荘十　野口昂明画

隠士 (四)

お藤の方は、あっと叫んだ。そこには、二人の白面の若侍がいる。

何時も、薄暗がりの中で…美男の面と見た時さえ、ちらりとガン燈の光りで認めたに過ぎない奥方には、どれが昨夜の若侍か、はっきり見極めることも出来なかった。

「うぬ、何奴」

最初の若侍が刀に手をかけた。

「貴様こそ、奥殿深く大胆な曲者…名を名乗れ」

「黙れ、貴様こそ、城中に忍び込んだ怪しい奴」

外の暴風雨に聞きとりかねて、次第に声を張りながら、じりじりと間をつめた。

「曲者だっ、出合え」

叫びと共に、ばらばらと引返して来た覆面の侍達が、その座敷へ飛込んで来ると、それを合図のように次の間からも同じように黒装束の一団が襖を蹴倒して白刃を揃えた。

「ああ」

面の侍はぎょっとして退こうとしたが、その一瞬の隙が不覚だった。

相手の若侍が腰をひねったと見ると、白光一閃、能面の若侍が僅かに身をそらした面上を音もなく切先が走った。

「あぁっ」

敵も味方も息を呑んだ。

若侍の顔は真二つに裂かれて上半面が飛んだ。

鼻から下は、ほとばしる血潮に見る見るその真白な口もあごも染っていく。

傷だらけの醜い皮膚に囲まれた怒りに血走る邪悪な眼、異常に大きな耳、血の滲む真白な下半面。

その奇怪な形相に、お藤の方は思わず眼を蔽った。

「御領主の奥方を手籠めにせんとした慮外者、修理。もはや貴様の逆心は天日にさらされたも同様だ。浅香啓之助が、御領主に代って成敗する、覚悟」

「なに啓之助だ。小癪な、こうなれば、どいつも、こいつも、皆殺しだ。何を躊躇する、かかれ」

白刃を相青眼に構えて退くと、味方を楯に逃れようとした。

「うぬ、卑怯者」

追い討つ啓之助、それを阻む剣の垣、奥殿は風雨の中で、忽ち乱闘の修羅場と変った。

啓之助は、今宵こそ修理を討ちとろうと、必死に彼の後を追ったが、修理の護衛も勇敢だった。

殊に、食い下って離れないのは啓之助のためにたびたびおくれをとっている、堀井帯刀、実は修理の謀将中川宗範だ。

今夜は手なれた短槍をもって突いて来る。

それも、左右、背後を配下に襲わせては、構えの崩れを突いて来る。

啓之助は、三度まで、修理に手裏剣をうったが、あせっていたためか、微かに傷を負わせただけだった。

修理の一味は庭へ逃れた。そして篠つく豪雨の中を闇にまぎれ込んでいった。

有楽町ひとりある記
司葉子

誘われて、お食事をしたり、お茶を飲んだりする機会の多い私たちですが、そんな時、はじめて行ったお店が自分のイメージにかなっていると無性に嬉しくなるものです。

ある日、あるとき銀座を一周して多分に疲れ気味の足をピカデリーの前から有楽町のフォームに抜ける横の道を入って、フト足を止めたこのお店「べにづる」が、今では私の銀座譜での帰りに一度は寄りたくなる、いわば「べにづる」ファンの一人になりました。

×　×

関西におりました私には「お好み焼」のお店が決して珍らしいのでは御座いませんが、流石は銀座人の趣向を凝らさぬ外観・内容ともに備わっている新しい試みの御好焼御殿と称するこのお店の風格には全く惹きつけられて仕舞いました。

とかくモダンに走り過ぎて落ち着きとか雅しさの失われている昨今、このように日本的な美しさと奥行きの深い優雅な雰囲気を保っているお店がある事は欣びに堪えません。

女でも安心して入れるお店というものは、なかなかないものですが「べにづる」は、どちらかと申せば女性のためのお店といえるでしょう。

冷たいもの、甘いもの、それに洒落た釜めしを頂くのなら階下で。文字通りお好みのものを自分で作る愉しいお好み焼は冷房のある涼しい階上で、…と御紹介してお奨め致します。【写真は司葉子】

誰にでも親しめる一流の店
堀留「コロムビア」

人形町を歩いて堀留電停まで来ると、一杯の珈琲でちょっと休むにしろ、食事をとるにしろ、誰でも思い出すのは電停前の「コロムビア」だろう。クラッシックな感じの部屋や、明るく近代的なキッチンスタイルの間、アベック向きの特別ルームなど、さりげなくしつらえてある雰囲気は勿論、珈琲も、食事の味は一流。商社の応接間にも、家族の食卓にも、愛人同士の憩の巣にもいい店である。

東京で初めてのジョッキコーヒー店
新橋「えくら」

新橋十仁病院前にある「えくら」というなかなか繁盛している喫茶店がある。この店はアイス珈琲についてミックス焙焦の方法を研究しているから他店の珈琲より一層本来のコクのある味が保たれるというジョッキ珈琲なるものが、客の人気を躾が上にも高めている。これは夏の飲み物として諸外国ではすでになくてはならぬものとなって、老若男女を問わず人気を呼んでいる。現在この店では、銀座でも行っていない異色的なシャンソンコンサート(L・P立体音響再生装置)を午後二時及び七時の二回にわたって開催している。なおこのシャンソンの解説には銀座"リラの会"が担当している。この店に働くウェイトレスの美しいのはすでに定評のあるところ―。素晴らしいウェイトレスのサービスで静かなメロディでも聴くのも格別な味―。この店は冷房装置も完備しているその点は安心。深夜営業もしているからアベックに最適

味とサービスで名を売る
「サンキョウ」

創業卅年、絶えず味の研究をして来たから、カレーライス一つにしても味がいい。上野公園前のレストラン「サンキョウ」の話だが下町と山ノ手、田舎と都会のカクテルみたいな上野で人気を博すには並大ていのことではない。事実味のほかにサービスのいいのもこの店の特色である。

LPジャズの封切場
銀二「マッキー」

銀座二丁目越後屋ビル裏の「マッキー」は、ジャズ喫茶としては都内随一といっていい。LPの新盤が毎日入っていて、まだどこにもない新譜が心ゆく迄楽しめる しかも演奏は立体音響の高周波忠実音装置、しかもスリーウェーブという東京にも二、三しかないといわれる設備である。ナマ演奏をヘタな室内で聞くのと比べたらまさにナマ以上。テレビもあって、女性のサービスもいいから、ジャズファンは勿論、ちょっと憩うにいい店だ。いつもジャーナリストや芸能関係人で賑っている。

白靴を買うなら!
神田今川橋「大塚屋靴店」

昔からオシャレの第一課は靴にあるとされている。服とよくマッチした靴の選択が大切だ。夏なら、何といっても白靴が無難、淡いグレーや女性なら淡黄色などいろいろあるが、やはり白パンプスが一番多いという。

同じ白でも型によって感じも違うから、やはり着る服のことも考えていろいろに選ぶべきだが、品物が豊富に揃っている店でなければ出来ない相談。そういうことになれば誰でも一応は想い出すのが神田今川橋電停前の「大塚屋靴店」のことである いつも、豊富な品物を揃えて、客には全部在庫を出し切って見せ選ばせてくれるから、つとに評判高い店だが、特に紳士白靴と婦人用白パンプスを何十種と揃えて、夏のサービスに乗り出した。流行スタイルなら何でもあるというから、靴を買うならどうしても覗いてみなければならない店だ。

キャバレーを安く遊ぶ
サラリーマン向きの「クラブ・フロリダ」

ナイト・クラブやバーなどはとつくに経験ずみ、というくらいの近代女性を恋人にもった男性に、とても安く遊ぶキャバレー遊びを紹介しよう。

神田駅中央線ホーム下の「クラブ・フロリダ」だが、サービスタイムを狙って入り、ビール百八十円ナリを五本ほど買う。ドッカと腰を下したら、さて彼女と差向いでも、並んで肩を抱き合ってでもご随意のままに飲むのである。彼女がいるから女性はいらない。アチラでもアベックのアツアツを見せつけられてはタマラないから近寄らない。指名料もいらないし女性たちに飲ませる必要もないから、文字通り出費はビールだけ。やがてサービスタイムが切れても酒はたんとあるからアワテル必要はない。ゆっくり飲んで、ショーを観て専属バンドが甘いタンゴか何かを演奏したら踊るんだ。みんなアテられて近づかないから、二人のフロアだと思って思う存分踊りまくること。

勿論、独りで行って、女性を相手に飲んだって一対一。大勢たかって散財するようなことはないから安く遊べる点では珍らしいサラリーマンの巣には違いないのですがネ…

苦悶する売春処罰法案

会期次第では四度流産の運命

実施面に非現実性

賛成議員も自信がもてぬ取締り

政府深入りを警戒

さる十日衆院に提出され、二十五日から法務委員会で審議されている売春等処罰法案をめぐる与、野党の動きは次第に活発化しているが、この法案は過去において三度審議未了に終っているだけに、果して今回成立するかどうかは国会会期の切迫とともに微妙な段階にある、以下法案の行方と舞台裏の動きをさぐってみよう

花村法相　犬養健氏　星島二郎氏　世耕弘一氏　牧野良三氏

○…法案提出者は神近市子氏をはじめ保守、革新合せて十九名だが、これに賛成署名したものは現在民主二十二、自由七、両社五十小会派九で、提案者と合計すると賛成者は全部で百七名となる、このうち保守党の大物では元法相犬養健、元通産相愛知揆一、元商相星島二郎、現内閣委員長宮沢胤勇、元自治庁長官塚田十一郎氏らが提案者として顔を出し、正力松太郎、篠田弘作、須磨彌吉郎、小笠原八十美、床次徳二、松浦周太郎、辻政信、町村金吾氏らが賛成署名をしている、また花村法相が二十五日の衆院法務委員会で「売春法の必要を認める、従って法案通過に協力と努力をする」と言明したことは注目される、この結果保守党内にも次第に賛成者が増加しつゝあることは事実だ、しかし一方には先日吉祠事件で予算委員長を棒に振った牧野良三氏の如く「売春婦をみんな警察にブチ込むなんて正気の沙汰じゃない、人道上の問題だ」として強硬に反対しているものも少くないので、婦人議員団の懸命な工作にもかゝわらず法案の行方は全く混とんとしている

○…こゝで最も注目されることは花村法相の言明と、養老警視庁防犯部長が「現行法規および条令だけでは売春取締りは困難である」として売春法の必要性を示唆している点である、しかし政府は「売春法が成立しても取締り面は、現在の警察の人員と予算では困難なことは目に見えている、そこで政府提案をして責任を政府が背負うよりも議員立法として通した方が責任を婦人議員[illegible]きるから結果的によい[illegible]えをもっているのでは[illegible]見方もある、この動き[illegible]両社の中にも「そんな[illegible]たら革新党のマイナス[illegible]して、会期延長に反対[illegible]流そうという気配もあ[illegible]要するに政府、野党を[illegible]春法は作りたいが、責[illegible]がもてない」という共[illegible]あって、そのためお互[illegible]転嫁を狙っているとみ[illegible]である、このような動[illegible]立に血眼になっている[illegible]員の中にさえみられ、[illegible]しているが内心は批判[illegible]ているようだ[illegible]くないのもこの間の事情を物語っている

○…そこで法案の行方は、会期[illegible]

北鮮の"地下代表部"

密貿の本據 友好貿易衝く

赤いスパイ網もばくろか

写真は友好貿易を捜索する係官（円内）金永基

赤い北鮮政府の在日"地下代表部"とみられる組織を追及していた警視庁公安三課では、海上保安庁と協力、二十六日までに中心人物とみられる中央区京橋宝町三の七会社員竹村こと金永基(四〇)ら北鮮系朝鮮人五名と日本人一名計六名を密入国と船員法違反容疑で逮捕するとともに、その黒幕とみられる中央区京橋宝町三の七斎藤ビル二階株式会社太陽無機コロイド工業所東京事務所内友好貿易=代表者福田満(五二)=方を同容疑で家宅捜索し、福田の行方を追及中

調べでは福田は[illegible]無機コロイド工業所東京事務所に机四つを借りて事務所とし、さきに同課に逮捕された金ら六人の[illegible]金は北鮮の[illegible]祖国統一戦線の中央委員で北鮮の密命を帯び、昨年二月香港経由で日本に潜入、おもてむきは友好貿易の社員になりすまし、"地下代表部"を指揮していたもの

福田は朝鮮とのバーター貿易により往復する船に密出入者を乗船させていた疑い、なお福田の逮捕により北鮮政府の対日地下工作の全貌や、スパイ網、密貿易組織などの新事実が次々と暴露される模様である

国策パルプ妥結

【旭川発】夏季手当交渉中の国策パルプ労使は二十六日夜の団交で会社側第二次案平均三万六千円（要求四万五千円）で妥結

トッキョウ・スカート 場末もたのし ⑪

上野のバタヤ部落

文化のスカートめくればオカマの森

上野の昼と夜はまるっきり正反対だ、東京の北の玄関だの、こどものメッカだの、文化の森だなんてのは、すべて昼だけのおはなし、夜ともなれば、動物園の梟（ふくろう）の声が陰にこもる森は、どの場末よりもはるかに淋しい、そして上野の森は葵部落の住人、夜の女、少数のアベック、家出娘を狙うヨタモノ、数名の両性動物OKAMAに占領されてしまう、日が暮れると、部落には三々五々と男たちが帰ってくる、彼らの多くはバタ屋だが、昼間はヒッソリ閑としていた部落全体は日ゼニをもってくる男たちを迎えてにわかに活気づく、部落内の食堂でチュウをあおるもの、シチュウにコッペパンを噛るもの、はては稼ぎを全部飲んで帰って、女房と山中にこだまするような大声をあげて喧嘩するものなど…新開地の町外れといった感じだが、夜の森の中ではここが一番賑やかなメインストリートである

とすれば夜の女が出るのはちょっと外れた暗がりでなければならぬ、彼女たちの出勤する場所は西郷さんの銅像下、図書館の裏手など、相手はお上りさんかアヴァンチュール（冒険）の好きな中年紳士たち、よくも図書館の裏手のような人ッ子一人通らぬような暗がりでと思うが、いつも立っているところをみると商売が成立つのだろうか、「全く不思議ですなァ、よく立っていますがねェ」と公園の交番氏もいぶかしげに首をひねっている

その彼女たちの強敵が、アベックと家出娘とOKAMAなんだそうである、何でもアベックが多いところは、痴漢は出てもスリルを求める連中は敬遠するんだそうでアベックさんは、公園交番前のお山とか、鶯谷駅への人通りが多い谷中墓地など、大声を出せば安全なところに多い

家出娘が夜の女の強敵とは、ちょっと不思議だが、ヤミの中にスリルを求める心理と、家出娘を狙う心理とが一致すると彼女たちは説明する、オカマが脅威なのはそれと全く同じ理由で、彼女たちの吸収力は絶大だ、女より女らしい一二三姐さんらは、本拠地の黒門町から新橋、銀座方面に流れてきているが、警視総監を殴ったところのベテランが、いまもお山の孤塁を守っている

介抱ドロにやられて、青くなって駆け込んだ酔っぱらいの話による彼女らの活躍ぶり？はーギーッ、ギーッと森の中にこだまする音に、何とはなしに誘われて近づくと、突然真黒いかたまりが宙天高く舞上った、よくみると太腿まであらわにしてブランコを楽しむオカマ女史、はて童心に帰ったのかな？と思う間もあらばこそ「あら、やっぱりきたわネ、わたし勇気のある人好きよ、遊んでね」とブランコに乗せて……気がついた時は、ベンチの上に長々と夜露にぬれて、懐中はモチロンからっぽ、これこそ、文字通りの"ユスリ"だといってしまえば落語だが、文化の森のスカートをめくればオカマの森になったり、東京の裏玄関が超場末につながっていたのではこればっかりは楽しくない＝完＝

【写真は葵部落】

才木中川改修事務所長召喚さる

大都工業小川社長も取調べ

都庁汚職を追及中の東京地検特捜部は二十七日午前江戸川区小岩町一の一九八八中川改修事務所長才木行正氏(五二)＝前都建設局河川部中川改修課長＝を収賄容疑で[illegible]疑は大都工業が現在工事中の橋護岸工事の請負入札をめぐり当時改修課長だった才木氏が五日中川改修事務所長に転任したいし小川氏が多額の金を贈り便宜を与えてもらった疑い

このほか大都工業は八王子の行政協定道路、中川放水路改修工事などここ数年間に約一億円の工事を請負っており、しかもB級の大都が一流会社と争って落札しているが、これらいずれも河川、道路部門などに顔の広い小川氏が担当の課長級に高額の運動資金を貢いでいたためとみられる

地検当局はさる六日大都工業取締役小川正治（小川社長の実弟、既逮捕）日本建設の二会社を談合の疑いで手入れを行い不正入札をめぐって建築、建設両局とのくされ縁を追及していたが、日東―建築局の線は両者の口が固く進展していない、大都―建設局の方は大都の山崎港湾部長逮捕から小川―才木両氏の贈収賄の線が打ちだされたもので、才木氏の取調べをきっかけに捜査のホコ先は建設局幹部に向けられ、都庁汚職捜査はいよいよ最終段階に入った

浅草で靴屋焼く

二十七日午前二時四十五分ごろ台東区浅草石浜町一の七製靴業石井三郎さん方から出火、モルタル二階建工場兼住宅一棟一世帯三十四坪を半焼、風呂場の残り火の不始末らしい

世界の泣 あちらのコボレばなし

ミス・テレビジョン

スカートの波がもう少し乱暴だったら…なんて変な期待を寄せてはダメ、彼女はロンドンで"ミス・テレビジョン"のタイトルを獲得した芳紀二十一歳のジェーン・クラーク嬢です

ごらんのように美しい彼女は英国商業テレビ放送でもNO・1の栄冠をかち得、近く南フランスのヨット回遊美人コンテストにも一位になってみせると張り切っている

【写真はキーストン特約】

ケリーによく似た英女優

顔二つといってもこうもアンバランスでは話の種にもならないが、美しい彼女の方（写真上）はアカデミー賞のグレイス・ケリーではなく、イギリスがアメリカへ回答としてグレイス・ケリー以上でしょうと誇る女優ジョセフィン・グリフェン嬢なのです、どうですケリーに似ているでしょう（ロンドン発＝UPサン）

これでも私はシュク女ヨ

さてもう一つのグロテスク、といっては叱られるかも知れませんが、この顔も有名な彼女なのですーコペンハーゲン動物園のゴリラのアボン〲嬢で、私の顔をこんなに大撮しにしたとムクレているところです（コペンハーゲン発＝UPサン）

夫と息子二人に重軽傷

病苦の妻カミソリ自殺

【八王子発】三鷹市内で神経衰弱の細君が、就寝中の夫、息子二人を道連れに一家心中を図ったという事件があった、二十六日午後十時ごろ三鷹市下連雀二七六高嶺二階五号室の会社員徳江勝男さん(五三)妻孝江さん(五三)は西洋カミソリで自分の首を斬り、さらに就寝中の夫、長男(八)次男(三)の三人の首を斬り一家心中を図ったが勝男さんが騒ぎだし、四人は[illegible]井病院に収容されたが孝江さんは二十七日午前一時ごろ死亡、勝男さんは一ヵ月、勝男さんと勝[illegible]それぞれ二週間の重軽傷を[illegible]署の調べでは孝江さんが三[illegible]から病気で神経衰弱気味だったため発作的に心中を図ったものらしい

若夫婦熱海で心中図る

【熱海発】二十六日午後十一時ごろ熱海市温泉通り武蔵野旅館に投宿中の夫婦客が服毒心中未遂で熱海署員に保護された、調べでは大阪市浪速区東関谷二の四靴販売業吉本一男さん(三五)と内妻奈良市西の坂町一二京岡勝子さん(三二)で同棲生活中、男の姑たちと折合いが悪いため女の実家に帰り暮していたが、再び別れ話が出たのを苦にして家出、死に場所を探して熱海にきたものと判明した

暴行し川へ突落す

女を殺した少年土工自首

【静岡発】二十六日午後九時半ごろ、静岡県磐田郡城西村相月飛島組岡田班土工福島県西白河郡滑津村滑津少年A(一九)は、班長岡田松伊さんにつきそわれ女を殺したと水窪署へ自首した、調べによると同少年は同日午後六時ごろ磐田郡水窪町料理店枡木キヨ子さん(二七)を、同町奥領屋先の水窪河原に連れ出し、暴行のうえ川に突き落したもので、死体は現場から約二千米下流で発見された、同少年は女が急に逃げ出したので追っかけてゆくうち女は川に落ちたといっている

自衛隊員が暴行未遂

【武蔵野発】二十六日午後十一時ごろ都下武蔵野市吉祥寺二一二五少女(一八)が、中央線吉祥寺駅北口前を通行中、後からきた海上自衛隊の制服の男に抱きつかれ、いたずらされかけたと武蔵野市駅前交番に届出た、立番中の中島巡査が駈けつけ男を逮捕、取調べ中、男はいきなり同巡査を殴って逃走したが、駅前付近で逮捕調べでは海上自衛隊第五護衛隊"あさかぜ"乗組員二等海士中村明人(二二)で「酔っていたのでわからなかった」といっている、殴られた中村巡査は全治二週間の傷

少女にいたずら 深川

二十六日夜七時ごろ江東区深川富岡町一の一三会社員新山茂さん＝仮名＝の長女K子ちゃん(八つ)＝富岡小学校二年生＝は近くに買物に行った帰り道自宅近くの富岡八幡宮前で若い男に「ちょっとおいで」と無理やり境内に連れ込まれ全治十日間の傷を負わされたが、K子ちゃんが恐怖のため大声で泣いたので通りかかった通行人が駈けつけ、男はあわててそのまま逃走した、深川署では悪質な変質者の仕業とみて捜査中

同僚の娘賣飛ばす

悪質なニコヨンを検挙

大塚署では二十六日夜荒川区三河島八の一四一八日雇人夫黒川芳太郎(六七)を職安法、児童福祉法違反で逮捕した、調べでは黒川は足立職安で知りあった近くの荒川区三河島八の一四一七クツ製造業黒木末雄さん(四三)の妻日雇人夫はなさん(四三)が生活に困っているのを知りはなさんの長女M子さん(一七)に「長野に懇意な旅館があるから…」ともちかけ、四月十五日長野県更級郡上山田町三四三一芸妓置屋八千代こと恩田千代(四三)方に前借三万円で売り、黒川は五千円の手数料を稼いでいた、同署では余罪あるものとみて追及している

元農林事務官 旅館で変死 新宿

二十七日午前一時五十分ごろ新宿区新宿四の六二やまと旅館二階八畳間で前夜から泊った男が布団の中で死んでいるのを女中が発見四谷署に届出た、所持品から愛媛県越智郡桜井町字桜井甲の一五〇〇元農林事務官長井正美さん(四〇)とみられるが外傷、薬物反応がないので同署では行政解剖の上死因をたしかめている

松戸競輪三日目成績 ◇第一B（千）❶荻原恒1分28秒2❷平野清2車❸岡島止（単）特70円（複）180円290円130円（連）❹―❺6080円 ◇第二B（千）❶榎戸昭1分27 6❷大野隆½車❸菊田省（単）特70円（複）220円120円120円（連）❸―❶12660円

あすのスポーツ △プロ野球 大映対毎日（七時、後楽園）東映対近鉄（七時、駒沢）大洋対中日（七時、川崎）△ボクシング 早大対関学戦（三時、早大大隈講堂）全日本ウエルター、バンタム両級選手権試合 松山対羽後、大塚対小室十回戦（六時半、後楽園スケート場）△競馬 大井